

教養基礎教育研究年報の創刊によせて

秋田大学長 徳 田 弘

秋田大学は、県内唯一の国立大学として、高度な水準の学術研究を推進し、次代を担う優れた後継者を育成するとともに、地域文化や教育・医療・産業等、広く地域社会の発展と振興に寄与するという使命を担っています。その一方、高等教育機関を取り巻く状況が、近年、著しく変化しており、社会の高度情報化・国際化や価値観の多様化、社会全体の学習ニーズの高まりや18歳人口の変動などを真剣に受け止めて、教育研究の不断の改革・充実と特色ある大学づくりを行うという責務を持っていることもまたいうまでもありません。

秋田大学では、このような社会と時代の要求に応えるべく、全学的に率直で積極的な自己点検を行って、秋田大学のあるべき姿について鋭意検討を重ねてきました。その結果、いわゆる教養教育については従来の総合基礎教育を抜本的に改めて、専門教育と教養教育を有機的に結合させて、全学教官の出動の下に学部一貫教育の形で実施することとし、実施・運営ための全学的組織としての教養基礎教育運営委員会と、改革・改善のための調査・研究と提言を行う相対的に独立した組織としての教養基礎教育調査・研究委員会を置くという改革案を策定するにいたりました。幸い、この新しい教養基礎教育を平成10年度から実施に移すことができたことはご承知のとおりです。

いわゆる教養教育の重要性については改めて指摘するまでもありませんが、先行大学において教養教育の実施・運営上のさまざまな問題が生じていることも事実です。その原因についてもさまざまな指摘がありますが、教養教育を充実・発展させるためには、大学本来の重要な責務の一つである教育に使命感を抱き、次の世代を担う学生の基礎学力の向上と論理的思考力・判断力の育成に資することを全学共通の目標として認識し、全学の教職員が不断に工夫を重ねて合意に達することが不可欠です。

新しい教養基礎教育が出発したこの平成10年度に、秋田大学教養基礎教育研究年報の第1号が上梓される運びとなりましたのは、熊田亮介教養基礎教育主管はじめ、関係者のみなさんの並々ならぬご努力によるものと感謝いたしております。同時に、教養基礎教育の充実・発展のためには、学内の教職員をはじめとするみなさんから忌憚のないご意見をいただく一方で、積極的なご協力をいただかなければなりません。研究年報の創刊を喜ぶとともに、教職員のみなさんのより一層のご支援をお願いするしだいです。